

多言語対応推進フォーラム

～【基調講演】「ダイアンの国際交流のヒント

～Finding Fun in Cultural Understanding～」～

講師：ダイアン吉日 氏 イギリス出身バイリンガル落語家

令和2年12月23日、一年延期となった東京2020大会の開催を見据え、withコロナ時代の多言語対応の取組を紹介する「多言語対応推進フォーラム」が開催されました。基調講演では、日本を愛するイギリス出身のバイリンガル落語家 ダイアン吉日氏が登壇し、言語の壁を超えて国際交流をすることについて、自身の半生を振り返りつつ、笑いを交えてお話されました。



日本と同じ島国のイギリス出身のダイアン氏は、幼い頃から海外に憧れを抱き、アルバイトをしながらバックパッカーで世界を旅した経験を持っています。そして、旅をしている中でできた友人からの勧めで日本を訪れました。

ダイアン氏は日本特有の文化に触れ、恋に落ちるように日本文化が好きになったと言います。それからというもの、生け花や茶道の師範免許をとったり、着付け教室に通って、400着をこえる着物をコレクションするまでになり、日本の伝統文化への探求を続けてきました。

英語落語の先駆者だった桂枝雀師匠の落語を見てからは落語にのめり込み、以来海外30か国で落語を披露し、言葉の壁を超え日本文化を発信しています。



ダイアン氏は、令和2年4月～10月の新型コロナウイルス感染拡大の時期に、家庭の事情でイギリスに一時帰国した体験などをもとに、withコロナ時代に外国人客を迎えるヒントを紹介しました。まず、イギリスと日本のコロナ対策にあまり大きな違いはありませんが、「3つの密」などコロナ関連の新しい日本語が広まっており、これは外国人にとっては知らない日本語であり、戸惑ったと話しました。また、イギリスでは非接触型クレジットカードを使って買い物ができ、電車に乗ることもできます。日本でもSuicaやスマホ決済はありますが、非接触型クレジットカードの利用も広まれば感染症対策につながると提案しました。

- フリー WiFi
 - 非接触型カード
 - 食文化の違い
 - 緊急時の情報共有
- Public wifi
Contactless cards
Dietary needs
Emergency alerts

また、コロナ対策以外にも、改善できる点を紹介しました。日本では、提供される食事にどのような食材が含まれているのかを意識する人が少ないため、世界各国の食文化に配慮した対応が十分ではありません。ベジタリアンや宗教上の理由で食べられない食材がある外国人にとって、日本での食事はストレスが大きいと話します。しかし、徐々にベジタリアン食品対応マークの表示がある食品も増えてきており、こうした配慮が広がることで、今後、外国人も安心して外食ができるだろうと展望を語りました。



さらに、日本で地震を経験した時に、火災報知器のアナウンスが日本語だけだったため、外国人がパニックになったエピソードを紹介しました。緊急時は、英語だけでもいいので多言語での情報共有が必要と訴えました。安全で便利な日本ですが、世界から外国人を受け入れるにあたり、改善できるところはたくさんある、とダイアン氏は語りかけました。

講演の最後には、笑いと呼吸法を組み合わせた「ラフターヨガ」のワークを交え、笑うことでリラックスしてコロナ禍を乗り越えていくことができる、とにこやかに呼びかけました。

ダイアン氏は「オリンピックを楽しみにしている」、「大好きな日本文化を案内したい」、「みんなで頑張りましょう」と講演を締めくくりました。

(令和3年1月作成)

